

卵巣腫瘍と ROMA（上皮性卵巣悪性腫瘍推定値）の関連について

◎杉浦 令奈¹⁾、長坂 和泉¹⁾、伊藤 綾苗¹⁾、村松 優花¹⁾
豊橋市民病院¹⁾

【はじめに】ROMA 値（上皮性卵巣悪性腫瘍推定値）は、腫瘍マーカーである HE4 と CA125 および患者の閉経情報から算出される卵巣悪性腫瘍の推定指標である。カットオフ値以上を示す場合、卵巣腫瘍は悪性の可能性が高いとされる。今回、患者データを用いて ROMA 値を算出し、卵巣腫瘍と ROMA 値の関連について検討したので報告する。

【試薬・機器】試薬はアボットジャパン合同会社の HE4、CA125 を使用し、機器は ARCHITECT i2000SR と Alinity i で測定した。

【対象・方法】対象は、2017 年 4 月から 2024 年 4 月の期間、卵巣腫瘍疑いの患者のうち病理検査で確定診断が得られた 70 名を対象とした。方法は、ROMA 値を基に、卵巣腫瘍の悪性、境界悪性、良性について検討した。悪性腫瘍は組織型についても検討した。70 名の内訳は、悪性腫瘍 61 名、境界悪性 4 名、良性腫瘍が 5 名であった。悪性腫瘍 61 名の組織型は、漿液性癌 25 名、類内膜癌 16 名、明細胞癌 9 名、粘液性癌 2 名、低分化扁平上皮癌 1 名、その他癌肉腫 1 名、卵巣未熟奇形腫 2 名、卵管癌 5 名であった。

【結果】ROMA 値は、悪性腫瘍全体で 52 名、境界悪性 3 名でカットオフ値を超えており、52 名の組織型は、漿液性癌 24 名、類内膜癌 13 名、明細胞癌 7 名、粘液性癌 2 名、低分化扁平上皮癌 1 名、癌肉腫 1 名、卵管癌 4 名であった。

【考察】ROMA 値は、良性腫瘍でカットオフ値より低値を示し、悪性腫瘍の 85 %、境界悪性の 75 % で高値を示し、卵巣悪性腫瘍の指標として有用であった。また ROMA 値は Type II の卵巣癌のスクリーニングに有用であるという報告があるように、漿液性癌、類内膜癌のほとんどで高値を示した。しかし Type I の卵巣癌でも高値を示すものが多く、組織型での有意な差は認められなかった。さらに卵管癌でも高値を示し、卵巣未熟奇形腫では高値を示さなかったことから、組織型や卵巣以外の婦人科領域の腫瘍については症例を追加した検討が必要と思われた。

【結語】卵巣腫瘍と ROMA 値の関連について検討した。ROMA 値は卵巣悪性腫瘍の指標として有用であった。組織型等に関してはさらに検討していきたい。
豊橋市民病院 0532-33-6111 （内線 2224）